

くり下がりの引き算 (あらすじ)

引き算の2つの方法と、それに関する問題を解説してあります。

小学校1年生の保護者さまだけでなく、「うちの子、ちょっと引き算があやしいな」と感じられている小学校2～6年生、また中学生の保護者の方もお読みください。

最初に学校でふつうに習う引き算の2つの方法を説明します

まず①の方法からです 例 $15 - 7$

- 5から7は引けません。
- 15を10と5に分けます。
- 10の方から7を引きます。 $10 - 7 = 3$
- この3を、先ほどとっておいた5と足します。
- よって $3 + 5 = 8$

これは、引いてから足すので①「減加法」とも呼ばれます。

次に②の方法です 例 14-6

- 4から6は引けません。
 - そこで6を4と2に分けます。
 - 14からまず4を引いて10にします。
 - 10からのこりの2を引きます。
-
- よって $10 - 2 = 8$

こちらは引いてからまた引くので②「減減法」と呼ばれます。

- ①と②のどちらの方が良いか。両方ともできるべきなのか、あるいは片方だけでできればいいのか。お話しすべきことはたくさんありますが、ここでは先に結論だけ言っておきます。

- ①「減加法」を意識的にできるようにし、
②「減減法」を無意識的にできるようにする、
それが私が**最善と考える結論**です。

本編のレポートでは

前編で、

- 今、引き算のやり方そのものを知らない子が増えているという事実。またそういう子たちが、どのように引き算できないのをごまかしているのか？事例による紹介。
- CMでもおなじみの大手K教室の、おどろくべきくり下がりの引き算の指導法。
- 引き算の2つの方法にともなう、本当の問題。
などについて、説明しています。
- また後編では・・・

- 引き算には第3の方法があります。それは②「減減法」を応用させたもので、様々な分野でとても有効です。その紹介。
- ①「減加法」を進める教育者が多い、その本質的な理由。またそれに対する対処法。
- 結局どうすればよいのか？また、ご家庭でお子さんの勉強をみる際の注意点。

- 本編のレポートでは、これらの内容をパワーポイント資料で前後編各20枚、計40枚の分量で詳しく説明しております。

無料でダウンロードできますので、お子さんの成長を真剣に考えられている方は、ぜひご覧ください。

本編もどうぞご覧ください。

富士宮教材開発
井出真歩

